

凍霜害防止設備整備緊急対策事業に関する事業評価票

受益者名	現況(被害発生年度:平成21年度) ＜事業導入前＞		成果目標(平成26年度)		割合(%)		地方農政局等の意見
	防霜施設 稼働面積(ha)	単収 (kg/10a)	防霜施設 稼働面積(ha)	単収 (kg/10a)	防霜施設 稼働面積	単収	
奥中 直樹	1.9	585	2.6	719	137%	123%	当初計画どおり防霜ファンを導入し茶園整備に取り組んだことにより、目標以上の単収の向上が図られていることから、成果目標が達成されていると判断する。
甲谷 彦幸	1.6	641	1.8	878	113%	137%	
事業実施主体 計	3.5	613	4.4	798.5	126%	130%	

- (注) 1. 現況は、一番茶について凍霜害による被害が生じた直近の年度を記載すること。なお、被害発生年度が複数年度ある場合には、被害程度がより大きい年度を記載する。
2. 成果目標は一番茶について記載する。
3. 単収は、荒茶数量若しくは生葉収量で記載すること。

別記様式第7-2号（要領（XI）の第11関係）

[illegible]

別記様式第6号

産地収益力向上支援事業（広域推進）に関する事業評価票

事業実施 主体名	新技術の内容	事業実施 初年度	成果目標の 具体的な内容	成果目標の達成状況				具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
				基準年 (計画策定 時) 平成23 年	目標年 平成26 年	目標値	達成率		
京都府	黒丹波大豆の生産向上を目指した土壌水分安定化技術の確立と機械化一貫体系の普及	24年度	①簡易土壌水分計を用いた土壌水分安定化技術を導入した黒大豆作付面積の増加 ②機械化一貫体系を実施した黒大豆作付面積の増	① 3ha ② 0ha	① 101ha ② 1.6ha	①100ha ② 5ha	① 101% ② 32%	・技術検討会の開催 ・実証ほ場の設置 ・技術マニュアルの作成等	簡易土壌水分計を用いた土壌水分安定化技術については、効果的に事業を実施されたものと思料する。 機械化一貫体系については、目標年における成果目標の達成率が32%と低く、達成できていない。 府における改善に向けた計画的な取組が必要であることから、改善計画を作成するよう指導する。
京都府	京都オリジナル酒のブランド化を目指した京都府育成の酒造好適米「祝」と掛米新品種「京の輝き」の生産体制の確立	24年度	①「祝」京都こだわり農法実施面積の増加 ②「京の輝き」栽培面積の増加	① 0ha ② 0ha	① 121ha ② 111ha	① 50ha ② 50ha	① 242% ② 222%	・技術検討会の開催 ・実証ほ場の設置 ・技術マニュアルの作成等	「祝」の「京都こだわり農法」実施面積及び「京の輝き」の作付面積が大幅に拡大しており、事業が効果的に実施されたと思料され、評価できる。
京都府	改良電気柵によるクマの被害防除方法の確立	24年度	①クマの来園回数に対する無被害回数 ②改良電気柵の導入果樹園面積	① - % ② 0a	①100% ② 809a	①100% ② 350a	① 100% ② 231%	・技術検討会の開催 ・実証ほ場の設置 ・技術マニュアルの作成等	クマの侵入防止効果を確認や実証ほの設置等により効果的に事業が実施されたものと思料され、評価できる。
京都府	水稻鉄コーティング直播技術の導入による飼料用米の低コスト生産技術の確立	24年度	省力・低コスト技術を導入した鉄コーティング直播による飼料用米の作付面積	0ha	17ha	30ha	57%	・技術検討会の開催 ・実証ほ場の設置 ・技術マニュアルの作成等	直播栽培は移植栽培と変わらない収量性が確認され、自家育苗する法人では、移植栽培と組み合わせることで労働分散を図られているものの、目標年における成果目標が達成できていない。 府における改善に向けた計画的な取組が必要であることから、改善計画を作成するよう指導する。